

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第2回高松市創造都市推進懇談会（U40／第6期）	
開催日時	令和5年6月13日(火) 18時30分～20時35分	
開催場所	高松市役所11階 114会議室	
議 題	1 事業説明・質疑応答 2 意見交換 3 その他	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	
上記理由		
出席委員	多田会長、湯川副会長、二川委員、土井委員、三木委員、棟近委員、宮武委員、松井委員、西森委員、水原委員	
事務局	松本産業振興課長、平井産業振興課長補佐、伊藤産業振興課主事	
市参加者	産業振興課	齊藤主事、藤原主事
	市場管理課	坂口主任技師、亀井主任主事、岩井主任技師、綾田主事
	文化財課 <small>（菊池寛記念館）</small>	森田館長、宇都宮業務係長
	スポーツ振興課	東スポーツ振興係長、石川主事
傍聴者	0人	
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411	

### 審議経過及び審議結果

#### 1 開会

#### （事務局から新任者の紹介）

#### 【会長】

今回から市の職員が参加するので、U40委員は一言ずつ挨拶をしてほしい。

#### （U40委員、一言ずつ自己紹介）

**(第6期高松市創造都市推進懇談会の運営方法について共有)**

2 事業説明

【会長】

それでは、順番に事業説明をしてほしい。

**(産業振興課事業説明)** ※特産品振興事業、伝統的ものづくり支援事業

【会長】

全国各地で物産展等を行ってきた中で、受けが良かった、反応が良かったものはあるか。

【産業振興課】

先日、金沢で行われた、「金沢百万石まつり」に参加した。うどん屋も出店し、実演販売を行ったが、声掛けしても、反応が良くなく、香川・高松と、讃岐うどんが繋がっていないのを実感した。瀬戸内レモンケーキの反応が良かった。そういった所が特徴でもあり、課題だと感じている。

【会長】

では、讃岐 = 香川 = 高松という認識がされていないのか。

【産業振興課】

されていない。地域性と全国からお客さんが来ているからということもある。外国人も多かった。

【委員】

既存の特産品を振興するだけでなく、新しいものを開拓したいというのは、今回の視点になるのか。

【産業振興課】

それも含めて御意見を聞きたい。特産品について伝承していきたいが、その前提として、特産品として、何があるのか、お聞きしたいと思う。

【委員】

福祉の現場では、人手不足が問題となっているが、特産品も担い手不足が問題になっているのではないかと考えている。担い手不足はひとまず置いておいて、特産品を見つけようというのが、今回の目的なのか。

【産業振興課】

後継者不足については非常に問題になっている。今回の特産品振興事業とは別の事業で取り組んでいこうかと思っているが、PRしないことには、後継者となる担い手も確保できないので、今回は、特産品の振興について、主眼を置いていきたい。

【委員】

石材も特産品になるのか。

【産業振興課】

石材（庵治石）も対象になる。

【委員】

庵治石は建築関係の分野では、有名であるが、ブランド力が高すぎて、コスト的に使えないことが多かった。石材業は、全体として担い手が減っている。農業についても同じように減っているが、原因が認識されているかどうかで、対策が変わっているように思う。

【産業振興課】

石材に限らず、そもそも売れていないという現状があるため、親世代についても、子供を継がせる気がない。

なかなか寄りついてくれないし、入ってきてもすぐに去ってってしまう現状もある。魅力的な面を伝えられていないのが、後継者や従業員数が減っていく原因ではないかととらえている。

【委員】

売れていないというのは、PR不足なのか、ニーズがないのか。

【産業振興課】

それぞれのニーズに合った商品を作れていないという面もある一方で、良い商品なのに

P Rが不足しているところもある。

市の立場では、新商品開発を直接的にできるわけではないので、良いものをP Rするのに力を入れていきたい。

【委員】

どちらに比重があるのかで、進む方向が大きく変わると思う。

**（市場管理課事業説明）※市場活性化事業**

【副会長】

先日、コペンハーゲンを訪れたが、コペンハーゲン駅の近くに、食肉加工工場跡地があって、若者たちのホットスポットになっている。外からにぎわいが見えている。高松市の市場は、お店が入っているが、にぎわいが見えづらい。

市場の周りで、使用できる公共の土地や場所はあるのか。

【市場管理課】

市場の敷地内では、加工水産物棟をイベントスペースとして貸し出している。

また、うみまち商店街にも、職員が流し台等を運んできて、シェアキッチンとして整備したスペースがある。どちらも、色々な形で活用できるスペースだが、広報活動が課題になっている。

【副会長】

屋外では、そういった施設はあるのか。

道路等を含めて、整備すれば、使用できるような土地はあるのか。

【市場管理課】

既存の駐車場が大きいので、そこを活用できたら、色々なことができるのではないかと。しかし、民間の事業者が24時間出入りしているところなので、工夫は必要である。

【副会長】

使用時間帯や運用ルール等を含めて、議論出来たら良いと思う。

【委員】

市場は、公共交通機関で行ける場所にあるのか。

【市場管理課】

まちなかループバスだと、「中央卸売市場前」バス停で降りればすぐである。電車だと、JR高松駅か昭和町駅から歩いて10分、15分程度になる。

【委員】

バスはどのくらいの頻度で走っているのか。本数を増やすことはできるのか。

【副会長】

現在、バスは40分に1本程度である。

【市場管理課】

バス会社と検討したことがあるが、実施には至っていない。

【委員】

ECサイトは、国内のみの販売か、国外も対象か。

【市場管理課】

現在は、国内のみを対象としている。

【会長】

令和5年度の事業計画について、決定しているものがあれば教えてほしい。

【市場管理課】

市場の中に、情報発信スペースを整備しているが、整備したものの、活用できていない状況である。

市場お絵描きコンクールのようなものを実施して、優秀賞の人には、市場の卸売会社さんから、食料品をプレゼントするイベントを計画している。

【会長】

地元の小学生との交流や、そこから波及するものを狙って、そのイベントを実施するのか。

【市場管理課】

予定では、地域住民を対象としていたが、地元だけでは、どのくらい応募があるのか分からないので、今回は、地元に限らず、広く募集する。

【会長】

応募はオンラインで完結するのか。

【市場管理課】

ホームページやSNSで広告を出すのが、応募する絵は、市場へ直接持ってきてもらう。市場への誘客を狙っている。

【委員】

話を聞いていると、現状、うまくいっている印象である。テレビ等のメディアでも度々紹介されているのを見かける。課題感を詳しく教えていただきたい。

【市場管理課】

店舗の撤退の動きが出て来ている。新店舗が次々と入っている時は、話題性があり、盛り上がっていたが、売上が落ちてきて、実際に撤退した店舗もある。また何か話題になるようなものをしてほしい。

【委員】

どのような層の人に来てほしいのか。

【市場管理課】

休日は、色々な層の人が来てくれているが、メインは高齢者層である。高齢者層を狙ってPRしているわけではないが、高齢者のイメージがついているのかもしれない。

元々、漁師町なので、地元の漁師が利用していた施設でもある。朝早い時間帯は、漁師がたくさんいる。今は、周辺の方がお昼ご飯を食べに来るのが、主な使われ方である。

**（文化財課 菊池寛記念館 事業説明）※コレクション展、特別展、文芸講座等**

【委員】

記念館や美術館は、日本では、一般的に、カメラでの撮影が禁止だが、緩めても良いものなのか。

#### 【文化財課】

菊池寛記念館については、撮影禁止の展示もあるが、大半は撮影可能である。フラッシュなどで展示している資料が劣化する恐れがある等、展示物の保護に関する考え方が根底にあるのだと思われる。

#### 【委員】

制限を緩めて、写真の撮れる記念館にしたら、人がどんどん来る。映える場所を作れば、話題性も作れる。人が訪れる目的を作ることができる。

#### 【委員】

菊池寛記念館のような記念館は、建物として必要な場所なのだろうかと感じる。建物自体を維持するために、相当の維持費がかかっているのではないか。それを賄えないのであれば、別の形で、例えば、ウェブ上に記念館を作るのも面白いと思う。

継続的にかかる費用を少なくするにはどうすれば良いかを考えると、PRの場所と規模を考え直す必要がある。

#### 【文化財課】

とても柔軟な発想だと思う。

展示している物を実際に、生で見たいという層も一定数いる。菊池寛記念館では、菊池寛の書斎を再現したスペースや直筆の原稿を実際に展示している。そういったものを生で見られるのは一つの強みだと思う。

一方で、委員の言うように、基本的にウェブで全てやって、部分的に実物展示にするという考え方も面白いと思う。

#### 【委員】

菊池寛記念館や屋島は、県外から、それを目的に来る人がいるぐらい魅力があるが、高松に住んでいるとその良さに気付きにくい。高松の人と県外の人では目線が違うのだと思う。菊池寛は、県外の人にどの程度認知されていて、来場者数がどのくらいなのか、分かる範囲で教えてほしい。

#### 【文化財課】

確かな数字は分からないが、毎年、直木賞や芥川賞の受賞式があって、菊池寛と深い関連があるので、一定数、県外からの来館者は存在している。

そういう切り口で、観覧者数の増加を考えるというのも一つ有効なのかなと思う。

【会長】

若い世代の利用者の増加対策に関して、近くに香川大学があるが、大学生と何か取り組む等、大学生は県外から来ている人もいるので、そういったところから意見を取り入れるような動きはしているのか。

【文化財課】

大学との連携事業で、大学に出向いて、菊池寛の功績や菊池寛記念館の紹介を行う事業を実施している。

菊池寛記念館だけではないが、大学生に文化施設などを、より利用してもらうための割引制度などがある。

一方で、実際に大学生を招いて、意見を吸い上げるような取組は行っていないので、改善の余地があると思う。

【委員】

菊池寛記念館は、なぜ、サンクリスタル高松にあるのか。また、特産品として扱ってはどうか。例えば産業振興課が特産品を売りに行ったときに、菊池寛グッズの販売をしたら、売っていたかもしれない。

そういった連携をとって、人をアピールしていくのは、物をアピールしていくのと同じことだと思う。

そういった試みが過去にあったのか。

【文化財課】

菊池寛記念館は、中央図書館と組織的なつながりが深い。文学と図書というつながりが当初深かったのも、サンクリスタル高松の中で、連携が取りやすいという趣旨で、設置していると聞いている。

菊池寛を人の特産品のようにブランドとして発信していくというのは、今後の課題だと思う。

【スポーツ振興課事業説明】 ※高松市ホームタウンデー開催事業

【委員】

高松市民の無料招待はどのように告知されているのか。香川の人は遊ぶところや出かける場所がないとよく言うが、試合を見に行ったら良いと思う。

【スポーツ振興課】

市民の無料招待は、小学校にチラシを配布している。

家族連れで来てもらい、小さいうちから、スポーツになじんでもらうことで一生涯のスポーツにつながるような取組であれば良いと思っている。PRに関してはチラシとホームページでの周知が主になっている。各チーム側でもSNSやホームページはあるが、閲覧数がかかなり限られているので、そのあたりも課題に感じている。実際に球場に行くとなんとなく気持ちが良いので、それを市民の皆さんに共有したいと思う。

【委員】

観に行きたいと思う。香川で活躍している選手も多いので、それを応援できる環境を作りたいと思う。

【委員】

ファイブアローズは、高松市の総合体育館を会場としているので、アクセスが良い。オリーブガイナースやカマタマーレ讃岐は電車でのアクセスが難しい場所で開催しているので、車を運転しない方は、会場に行くことが厳しいと思う。

予算を、交通アクセスの方に活用する予定はあるのか。

【スポーツ振興課】

御指摘のとおり、アクセスは課題の一つだと思っている。過去に、ファイブアローズがことごとくタイアップして、入場チケットと、ことごとくの電車のチケットをセットで販売したことがあったが、あまり効果がなかったと聞いている。また、他の市町から小学生を対象に無料バスを出して、観戦に来てもらったこともある。バスを出すというのは、チーム側が対応できれば、可能だと思う。

【委員】

カマタマーレ讃岐の試合を見に行ったことがあるが、応援歌や選手紹介の掛け声等が分かれば、試合の勝敗にかかわらず、楽しい思い出になると思う。共有できるのは素敵だと思う。

【スポーツ振興課】

生で観るとやはり迫力がすごい。共有できたら楽しいというのは共感できるところである。カマタマーレ讃岐だけであるが、香川大学の学生が自分たちで企画をして、手袋やタ

オル等のグッズを作成した。観客を含めて盛り上がる仕組は効果的だと思う。

【委員】

予算が少ないが、収入を得る施策はとっているのか。

【スポーツ振興課】

飲食に関しては各チームが、キッチンカーを呼んだりしている。

【委員】

有名な選手がいることやチームが強いということが、顧客満足度につながっていると思うが、どのチームも強いとは言い難く、そこで満足度を得るのは難しい。そうすると、地域のスポーツ団体はCSR※活動が大切になると思うが、地域のために行っている活動があれば教えてほしい。

【スポーツ振興課】

市内の小学校への選手派遣を行っている。そこで挨拶運動等を通して、認知度を高めたり、簡単な教室を行ったりしている。

過去には、フードロス対策を会場で実施したこともある。

まずは、選手、チームの顔が見えるような活動が、CSR※も含めて大事になってくるので、力を入れてほしいと思う。

### 3 担当事業決め

【会長】

それでは、事業説明を参考に、U40委員が、それぞれどの事業の議論に参加したいか、グループ決めを行いたい。

**(グループ決め・グループに分かれて意見交換)**

### 4 閉会

(事務局から事務連絡をして閉会)

※CSR・・・「企業の社会的責任」とは、企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダーからの信頼を得るための企業のあり方を指す。

(出典：経済産業省HP、  
[https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei\\_innovation/kigyokaikei/index.html](https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/kigyokaikei/index.html)  
、CSR、2023.6.29)